

高校サッカー部とJリーグユースにおける GK の差異に関する研究

－理念・方針と指導法に着目して－

倉本晃司 （ 広島大学 ）

1. 目的

本研究の目的は、高校サッカー部とJリーグユースクラブにおいて、GK コーチの指導方法と指導理念や、GK 選手の目標と進路に着目して、両チームの共通点や相違点を明らかにすることである。

- 1) 研究方法 指導法、育成方針、選手の目標、進路計画などを問う質問紙調査
- 2) 対象者 高校サッカー部 (GK 選手 24 名・GK コーチ 3 名) J リーグユースクラブ 3 チーム (GK 選手 12 名・GK コーチ 3 名)
- 3) 調査方法 GK 選手と GK コーチを対象とした質問紙調査での共通点と相違点の検討
- 4) 分析方法 IBM SPSS Statistics ver.25 による分散分析

2. 結果と考察

1) 練習内容について

本調査では、GK の練習内容について 8 つの項目にカテゴリズし、それぞれの練習頻度を GK コーチに回答させた。それぞれの回答を比較すると、練習内容に関して大きな差はみられなかった。

2) 基本情報について

現代サッカーにおいては、GK というポジションの選手に、恵まれた体格を求める傾向にある。具体的には、代表経験のある GK のうち、身長が 180 cm に満たない GK は 0 人である。高校サッカー部の平均身長は 176.9 cm で、J リーグユースクラブの平均身長は 180 cm となっており、高校サッカー部をはるかに上回っている。これらを考慮すると、平均身長が 180 cm である J リーグユースクラブから多くの J リーガーが輩出されていることが裏付けられる。

3) 練習時間について

コーチが行う GK の時間外練習時間、選手が

行う自主練習の時間を 1 週間単位の時間で集計すると、コーチが行う時間外練習時間、選手が行う自主練習時間の平均とも高校サッカー部のほうが圧倒的に多い。これは、全体練習における負荷、試合までのコンディショニングなどが影響していることや、J リーグユースクラブが練習時間にこだわらず、より試合を重要視し、練習よりも試合の中での育成を図っていることが要因の一つとして考えられる。

4) 選手の進路計画

高校サッカー部選手は、様々な選手によって様々な進路を目標としており、多様性がみられた。一方で、J リーグユースクラブ選手は、77% が J リーガーと回答し、中には海外で活躍することを目標としているという回答もあった。

3. 結論

本研究では、第一に、練習内容、選手の指導者に対する満足度が共通点として明らかになった。第二に、身長差、練習時間、さらには選手の目標進路と GK コーチが競技力の向上にどれほど力点を置いているかという育成方針に大きな違いが見つかった。高校サッカー部と J リーグユースクラブそれぞれの指導者は、それぞれの環境にあった GK コーチの在り方を考える必要がある。両者の目的や方針に沿って指導しつつも、お互いのポジティブな部分も取り入れながら取り組む必要があると考える。

4. 主な参考文献

- 1) 古賀康彦 (2013) J リーグクラブ・ユース指導者と高等学校サッカー部指導者との指導哲学の比較
- 2) 辛文 (2013) 人的環境がユース年代におけるサッカー競技力の高低に与える影響に関する研究